

TOPICS

01 e-learning WORLD2009で「actbrain」を紹介

当社は、8月5日～7日に東京ビッグサイトで開催されたeラーニングシステムやコンテンツの展示会「e-learning WORLD2009」にリニューアルしたeラーニングシステム「actbrain（アクトブレイン）」を出展しました。「e-learning WORLD」は、eラーニング分野における国内最大級の展示会で毎年開催されています。当社は今回、展示ブースでの展示に加え、セミナー形式のイベントにも参加し、当社の長年にわたるeラーニングビジネスの経験や、そのなかで蓄積してきたノウハウを活かしたコンサルティングなども含めたactbrainの機能・魅力について実例を交えて紹介しました。会場には、3日間を通じて多数の来場者があり、大変盛況のうちに終了しました。



02 「MajorFlow for .NET」と「サイボウズ ガルーン 2」との連携モジュールを発売

当社100%出資のパナソニック電気ネットソリューションズ株式会社は、電子決裁システム『MajorFlow for .NET』に新たなオプションとして、サイボウズ株式会社が提供するエンタープライズグループウェア『サイボウズ ガルーン 2』との連携モジュールを追加し、9月11日から発売を開始しました。このオプションにより、グループウェア上から本格的なワークフローが利用できるほか、社内アプリケーションの一元管理や業務の可視化が進むため、導入後の業務効率性がこれまで以上に向上します。今後もお客さまのご要望を反映した機能を追加し、効率化やコスト削減というお客さまの課題解決に貢献していきます。



03 第11回定時株主総会の動画配信終了

当社は、6月17日に開催した第11回定時株主総会の動画を6月23日～9月22日までインターネットで配信しました。これは、株主総会当日にご来場いただけない株主さまをはじめ、より多くの方々に、当社株主総会の様子を紹介するために実施したものです。期間中はコンスタントにアクセスがあり、最終的なアクセス数は700超となりました。今回が初めての試みではありましたが、当社をこれまでとは違った角度からお知りいただくきっかけになったのではないかと考えています。当社では、今後も株主・投資家の方々に、よりわかりやすい情報の提供に努めてまいります。



あいえす☆人物伝 その3 竹内洋平



「新人の頃に現場で学んだことが今も役立っています」と話すのは、マーケティングソリューション事業部でパナソニック電工の営業所・代理店向け受発注システムを担当する竹内洋平。入社後3年半は、現場密着の部署でみっちり鍛えられたそうです。「現場からスタートしてよかったのは、現場の実際の作業でどのようにシステムを使っているかがわかったことです。今の部署に来て2年、新しい仕組みを作るときにこの経験が活かしています。これを強みに、将来はお客さまご自身が気づかれないような潜在ニーズや付加価値をオンしたシステムを考案し、提案していきたいです」と語ります。「今の仕事はやりがいがある反面、責任も感じる」という彼は、平日は業務に集中し、休日に上手く気分転換を図っている様子。「会社の同期や後輩とチームを作ってフットサルをしています。結構強いですよ」とのこと。仕事からもプライベートからもアクティブさが伝わってきました！

編集後記

新型インフルエンザの流行で、休校や学級閉鎖などが続いています。今号発行の頃には、流行のピークがきているかもしれませんが。備えは万全に、いざという時にも、あわてず、騒がず、冷静に。心構えにも平常心が必要ですね。

発行元

パナソニック電気インフォメーションシステムズ株式会社
総務部 広報・IRグループ
〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー16F
TEL 06-6377-0100 FAX 06-6377-0833 <http://panasonic-denko.co.jp/>
※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。
※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

IS CLOSE UP

パナソニック電気インフォメーションシステムズ
アイエスクローズアップ
2009.9
Vol.9

Top INTERVIEW

備えを日常化する。

新型インフルエンザの爆発的な流行（インフルエンザ・パンデミック）が現実味を帯びてきています。厚生労働省が発表した試算によると、流行のピークは9月下旬から10月上旬であり、1日最大76万人に発症の恐れがあると言われています。今年5月の国内発生時には多くの学校が閉鎖される事態となりましたが、今後は、公共施設や企業の事業場閉鎖も懸念されることです。今回のインフルエンザ・パンデミックは、これまで事業継続計画（BCP）の前提となる災害、すなわち地震や火災とは根本的に異なる点があります。それは、インフラそのものではなく「人」に影響があるという点です。これまでのBCPは、インフラが被ったダメージをいかに克服するかという点にポイントがありましたが、今回、経営者として最も危惧するのは法規制によって事業場が閉鎖されることです。したがって、いかに感染の拡大を防ぎ事業を継続するか、そして、いかに人員の確保・管理を行うかが最大のポイントとなります。

一方、インフルエンザ・パンデミックの場合は、天変地異のように突然ではありませんから、状況を的確にシミュレーションし、訓練できます。しかも、何もかも一から特別に作る必要はなく、日頃の積み重ねが有効に機能します。たとえば、内部統制で確認した業務の定義や業務フローは、人員配置シミュレーションや、役職層別・組織別・場所などにプレイクダウンした対策のベースとして活用できます。逆に、属人的なスキルや暗黙知の標準化が、これを機に進むこともあるでしょう。当社の運用チームも、国内での新型インフルエンザ発生後、チーム別・個人別にスキル・ノウハウのリスト化と属人化したオペレーションの見直しを行っています。

今回、当社でもさまざまな対策を講じましたが、そのなかで私が実感したのは、備えを日常化することの必要性です。実は、非常時に役立つのは、案外、日頃から使いこなしているものなのです。この視点から、みなさまにも備えを見直していただければ、きっと、安心・安全のレベルが格段に向上するはずです。

もちろん本当は、インフルエンザ・パンデミックに陥らないことが一番良いのです。そのためには、そもそも私たち自身がインフルエンザにかからないよう、寝不足や不規則な生活を避ける、帰宅時の手洗い・うがいを忘れない、といったことをビジネスパーソンの健康管理の基本中の基本として、日常化しておきたいものです。

今一度、私たち自身が日常を振り返る機会なのかもしれません。



パナソニック電気インフォメーションシステムズ株式会社
取締役社長 河村 雄良
Takeyoshi Kawamura

Close Up Now

インフルエンザ・パンデミックに備える!

～パナソニック電工ISの対策あれこれ～

全国的な流行期に入ったとされる新型インフルエンザ。流行のピークは9月下旬から10月上旬と予測されており、企業にとっては、事業場の閉鎖などによる事業活動の停滞が最大の懸念となっています。パナソニック電工インフォメーションシステムズ(以下パナソニック電工IS)は、インフルエンザ・パンデミックに備え、自らの事業継続の視点だけでなく、お客さまの事業継続に欠かせないシステムをお預かりするという視点でも仕組みづくりを進めています。

お客さまの
システムをとめない
～システム運用～

パナソニック電工ISでは、2008年秋から強毒性鳥インフルエンザの流行を前提とした対策の検討、マニュアル作成に取り組んできました。現在流行中の新型インフルエンザは弱毒性のため、今般、若干の修正を加えた新バージョンも策定しています。検討のポイント、そこから導き出された対策について、システム運用対策の担当者に聞きました。



IDCビジネス本部
IDC運用センター
グループ長
横田 正彦

検討のポイント

重要業務の特定と欠勤率に応じた 業務継続計画を作る。

業務の重要性のランク分けを行い、重要業務については従業員の欠勤率を考慮した対応策をシミュレーションしました。

パートナー企業とともに、 実際のオペレーションにあわせて検討する。

机上の空論にならないようにパートナー企業におけるインフルエンザ・パンデミック対策や、現場の担当者の意見も聞きながら対応策を作成しました。

これら2つのポイントを踏まえて、机上と実地のシミュレーションなどを繰り返し、
対策を固めていきました。以下は対策の一部です。

対策01

欠勤率に応じた 業務パターンの策定

最小構成でのオペレーションをシミュレーションし、業務ごとにパターン化しました。パターンは、欠勤率が3割、7割と増えた場合に、どの程度の影響が出るか、どのようにフォローするかを検討して作成しました。担当でない業務でも、万が一の際には補充しあうように訓練もしています。

対策02

部署の レイアウト変更

同じ業務に従事している人を2つのグループに分け、席を離しました。席を離すことで感染者との接触の機会を減らし、感染拡大のリスクを軽減します。また、コールセンターなど、密閉された空間には、ウイルス抑制効果が確認されている空気清浄機を導入するなどの工夫もしています。



対策03

フロア間、部署間での WEB会議

万が一、オペレーションルームなどの密閉された空間でインフルエンザ患者が発生した場合は、該当箇所への入室制限なども行います。そういった場合でも業務に支障が出ないように、同一ビル内のフロア間、部署間でもパソコンを使ったWEB会議システムを使う準備をしています。

事業継続のために
～経営を止めない～

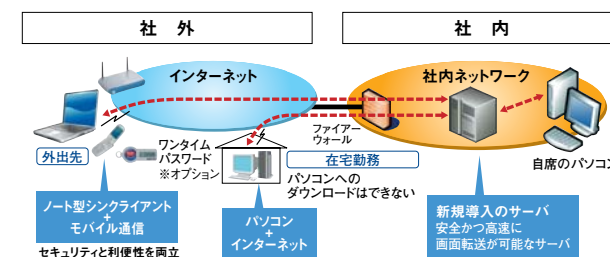
経営を止めない、その大前提はコミュニケーション。オフィスにいなくても、あるいは出張自粛の場合においても意思疎通を図るために、ITを活用しています。

IT活用01

モバイル・ シンクライアント

万が一、重要な意思決定や判断が必要なとき、自宅待機になってしまったら…。また、情報セキュリティの観点から私用パソコンでの業務を禁じている会社も少なくないはず。そんなときに効力を発揮するのがモバイル・シンクライアント。インターネット環境さえあれば、どこでもオフィスの自席と同じように業務が可能です。パナソニック電工ISでは今回、インフルエンザ・パンデミック対策として経営陣の自宅にモバイル・シンクライアントを配備しました。経営判断のスピードを鈍らさせません。

モバイル・シンクライアントの導入イメージ



IT活用02

ビデオ会議 システム

経費節減策としてご提案することの多いビデオ会議システムですが、多くの企業で導入検討のきっかけとなる「出張削減/自粛」は、インフルエンザ・パンデミックの際にも大いに起こり得ることで、パナソニック電工ISでは、出張旅費の削減などを目的にビデオ会議を導入して以来、さまざまな会議にビデオ会議を活用しています。インフルエンザ・パンデミックの際には、移動と接触機会の減少という観点から、感染拡大防止への効果が期待されます。



POINT

万が一の備え

備蓄品も在庫するだけでは、いざというときに役に立ちません。正しい使い方をマスターするため日頃より講習会を行い、万が一に備えています。



横田グループ長のひとこと

パナソニック電工ISでは社外のインフルエンザ・パンデミック対策研究会に参加し、意見交換と情報収集に努めています。その際、当社は情報セキュリティやコスト削減の観点からモバイル・シンクライアントやビデオ会議などを積極的に導入してきましたが、これらがインフルエンザ・パンデミック対策にもかなり有効であるということがわかり、いざという時の備えは日頃からできている、ということを確認しました。

